

少子化が招く共学化のうねり

北進ゼミナール

2025 年 8 月「鎌倉女子大学が共学化 29 年から」という見出しを新聞記事の中で見つけた。鎌倉女子大は創立 80 年を超える私立女子大学だが、全国的な「女子大離れ」の傾向と少子化の進行で学生の確保が難しくなることを見込み、創立以来続けてきた女子教育の精神を転換させて 2029 年 4 月に共学の大学となることを発表したそうである。筆者は「女子大離れ」以上に少子化の進行予測が大学の決断を促したのではないかと推測している。資料Ⅰは 2001 年以降の全国の出生数の推移をグラフにしたものだが、今後も恐ろしい勢いで子どもが減っていくことが読み取れる。だから話は大学に留まらない。当塾付近から通学圏内にある私立の男子高・女子高も続々と共学化に舵^{かじ}を切っている。そこでふと「他府県の高校ではどうなのか」と思いが及び、調べてみた。

資料Ⅱは 2002 年時点と 2022 年時点の全国の男子高・女子高の数をまとめたものと参考情報である。これを見ると男子高も女子高も減少傾向にあることが読み取れる。そんな中で埼玉県には公立でありながら男女別学になっている高校が現在でも 12 校存在していて全国最多となっている。ただ、そこにも共学化の波が押し寄せてきているようだ。

2022 年に埼玉県の個人が「県立男子高が女子の入学を拒んでいるのは女子差別撤廃条約注 1 違反だ」という申し立てを行い、それを受けた埼玉県の第三者機関である県男女共同参画苦情処理委員はその翌年に「条約違反とまではされないものの埼玉県立高校において共学化が早期に実現されるべきである」という勧告を埼玉県教育委員会(以下県教委)に出した。これを受けて県教委は 2024 年に「主体的に共学化を推進していく」という方針を発表している。これは一見すると少子化とは無関係のように思われるが、今夏行われた意見交換会注 2 の場で共学化に反対する意見が相次いだところ「生徒数も減少するので高校再編は避けられない」「新設校の男女別学は難しい」という趣旨の回答が県教委からあったそうである。「新設校の」が玉虫色の表現だが、やはり少子化がその方針に影響を与えていることが伺える。

ところで、共学化に対する埼玉県民の意見はどのようなものであろうか。資料Ⅲは意見交換会の場で出ていた意見を抜粋してまとめたものである。共学化推進に対する意見交換会での声なので、どうしても反対派のものが多くなっている。共学化賛成派は公教育におけるジェンダー平等を訴える傾向があり、共学化反対派は別学のメリットや選択肢の確保を訴える傾向があるようだ。それぞれの意見を読んでいくとうなづけるものばかりで、長年続いてきたものを改革することの難しさをつくづく感じる。

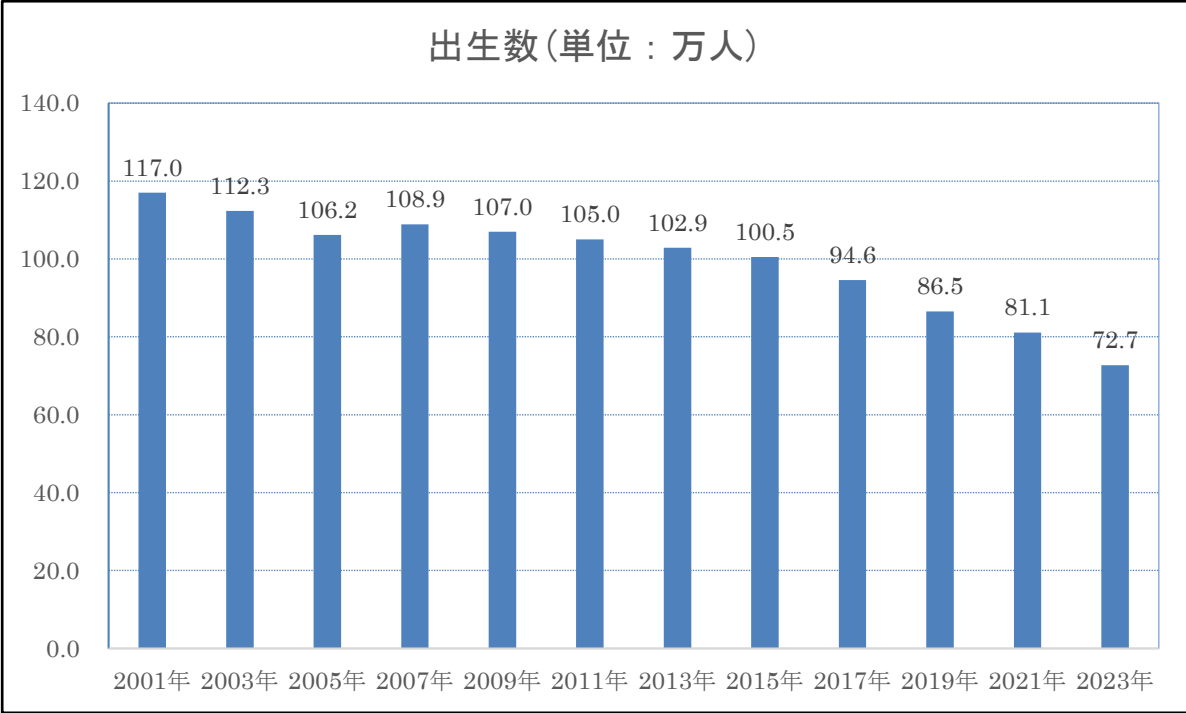
一つ的女子大の共学化に関する記事の紹介を皮切りに、公立高校の共学化について議論が沸騰している埼玉県の状況を取り上げてみた。少子化が進む中で埼玉県に限らず男女別学の高校や大学はますます希少な存在となるだろう。入学時には別学でも在学中に共学化が始まることもあるかもしれない。中学生にとっては将来の選択に直結する話題でもあるはずだ。自分自身の十代後半をどんな環境で過ごしたいのか、どのような青春を送りたいのかを考える契機として欲しい。

以上

注 1. 1979 年に国連で採択された女性差別を防止するための条約。日本は男女雇用機会均等法制定と同年の 1985 年に批准(国として確認・同意をすること)した。

注 2. 埼玉県教育委員会が 2025 年 7～8 月に県内 4 会場で開催し中高生 56 人を含む計 91 人が参加した。

□資料Ⅰ 全国出生数の推移



出典：出生数は「政府統計の窓口 e-Stat」掲載数値を引用し概数化した。

□資料Ⅱ 全国の男子高・女子高の数と参考情報(埼玉県公立高校情報他)

年度	男子高数 (国公立計)	女子高数 (国公立計)	参考情報
2022 年	100 校	275 校	2022 年には全国の国公立高校は 4824 校あった。同年の埼玉県内の全日制公立高校は 139 校で、そのうち男子高は 5 校、女子高は 7 校である。
2002 年	192 校	483 校	

出典：学校数は「政府統計の窓口 e-Stat」及び「埼玉県令和 4 年度学校基本調査 調査結果の概要」掲載数値を引用

□資料Ⅲ 埼玉県公立高校共学化賛成意見と反対意見

共学化賛成派の意見(抜粋)	共学化反対派の意見(抜粋)
・「共学化して女子が入学したとしても、行事などを工夫して変えればいい」 (別学高卒業生)	・「進学先の選択肢として男女別学校を残して欲しい」 (中学生)
・「全国的に知名度のある浦和高校に女子が行けないというガラスの天井をなくして欲しい」 (高校生保護者)	・「異性と関わるのが苦手な人にとって共学化は苦痛だ」 (中学生)
・「通学圏内に代替性のない別学校があるのであれば共学化はやむを得ない」 (高校生保護者)	・「埼玉で女子教育が行われていることには社会的な意義がある」 (高校生)
・「多様性の時代に男性、女性だけの学校の必然性はない」 (県内在住者)	・「子どもは異性との問題を抱えて別学校へ進学した。別学校のニーズがあることは分かる」 (高校生保護者)
	・「校訓や校歌が変わり愛校心がなくなる」 (別学高卒業生)
	・「別学であるから男女それぞれの能力を伸ばしている」 (県内在住者)

出典：8 月下旬の朝日新聞・読売新聞・毎日新聞・埼玉新聞・東京新聞の各電子版に掲載されていた声を引用

少子化が招く共学化のうねり

少子化の進行で男女別学であった高校・大学に共学化の潮流が生まれています。その一方で、まだ今のところは東京・神奈川にも国私立男子高・女子高は存在しています。つまり志望することも可能だということです。これを機に自分自身の高校生活を思い描いてくれば幸いです。

課題文や資料Ⅰ・資料Ⅱ・資料Ⅲに目を通した上で、以下の条件に従って常体語(「～だ」「～である」調)で作文を書いてください。なお、課題作文は以下の手順に従って3日に分けて取り組んでください。また、(3)でテンプレートが示されていますが、それにこだわる必要はありません。(1)と(2)①②④の下線部の条件を守れば自由に書いて構いません。

(1)指定作文用紙に横書き 800 字以内で書くこと。タイトルは不要です。 注)今回は横書きです。

(2)以下の順番で目安時間(3 日間合計 3 時間以内)を意識して進めてください。

- ①【初日 20 分程度】課題文全体と資料Ⅰに目を通し、資料Ⅰから 2023 年の出生数が 2001 年のそれと比べてどの程度の減少になっているか(人数でも割合でも可)に触れた上で、あなたの考えたことを 100～150 字程度で下書きしてください(いきなり原稿用紙に書き始めないようにしましょう)。
- ②【初日 20 分程度】資料Ⅱから読み取れたこと(2002 年と 2022 年の全国の男女別学高校数の比較 or 2022 年時点の全国の高校に占める男女別学高校の割合と埼玉県公立高校に占める男女別学高校の割合など)を明示した上で、あなたの考えたことを 50～100 字程度で下書きしてください(同上)。
- ③【二日目 30 分程度】課題文第二段落・第三段落と資料Ⅲを参考にして、男女別学校についてあなたの考えを 250 字程度で下書きしてください(同上)。
- ④【二日目 30 分程度】課題文第四段落を参考にして、自分自身が共学、男女別学のどちらを希望するのかを明示した上で、その理由を述べると共にどのような高校生活を送りたいのかを 300 字程度で下書きしてください(同上)。
- ⑤【三日目 30 分程度】①～④がつながるように接続詞を入れた上で、誤字脱字の訂正、句読点・助詞の点検及び修正などを行って 800 字に収まるようにして下書きしてください。
- ⑥【三日目 20 分程度】⑤で完成したものを最終確認しながら指定原稿用紙に清書してください。

(3)書き方がよく分からないという生徒は以下のテンプレートを参考にして書いてください。

- ① 少子化について私は～ということは知っていた。資料Ⅰから 2023 年の出生数は 2001 年のそれと比較すると約○%の減少(約○万人の減少)となっていることが読み取れる。この数値を見て、私は～と思った。
- ② さて、埼玉県内の状況についてだが、資料Ⅱから 2022 年時点で全国的には男女別学高校の割合は約○%であるが、埼玉県公立高校の場合は約○%となる。これを見て私は～と感じた。
- ③ もし私自身が埼玉県で暮らしていたならば、公立高校共学化についての議論に対して～という意見を持つだろう。ところで、私が最も気になったのは資料Ⅲにあった～という声である。なぜなら～だからだ。それもあって、私は～こそ最も大切にするべきだと考えている。
- ④ 私は～に進学したいと考えている。前述の通り～だと考えているからだ。そして、～を目標に～のような努力を続けて、高校の先にある未来に～のようにつながっていきたい。そのためにも今を～という点に注意しながら過ごしていきたい。

以上